

Eureka XI

六年制通信 No.31 令和6年1月12日(金)号

備える

共通テストの前日ですからちょっと遅い気もしますが、年頭のご挨拶を。明けましておめでとうございます。今年も頑張って勉強し、ともに成長しましょう。

六年生の諸君は全力で入学試験に挑んで下さい。思えば入学以来、膨大な時間をかけて勉強してきましたね。この6年間でいろんなことがあったと思います。思いのほか勉強が進んだことも、ついさぼってしまったことも。考えてみれば、今の自分の実力作ったのは自分自身なので、その実力をもって試験に挑む以外にありません。どうか、誠実に精一杯を尽くして下さい。この共通テストに挑む君の姿勢は、これからの君の人生に対する姿勢だと考えていいと思います。ここで真面目に懸命になれない人は、今後どんな重要な場面が来ても不真面目な対応をしてしまうでしょう。今回の試験に対する君の心構えが、これからの君を作り上げる、そう思って頑張りなさい。

私は年末に「ブラッシュアップライフ」を観ました。全部で8時間くらいあったかも。役者さんて、凄いですね。観た人はわかるでしょうが、最初の方のガールズトークなんてシナリオ通りに演じているとは思えないくらいの自然な雰囲気を出していますよね。バカリズムの脚本も、よくまあ男のあなたが女の世界をそれらしく書けるものだと感心しました。これは転生、つまり生まれ変わりの物語ですから絶対先生は好きですよと勧められたわけですが、今世で徳を積んでおかないと来世では人間に生まれ変われないという考え方があって、私は確かにそういう話を集会などでしていますからね、大好きです、こんな話。腹の立つ奴を見ると、ははあ、あいつまだ人間一回目に違いない、可哀そうに来世は虫かミミズかそんなんになるんやろなと考えると腹が立たなくなるよ、と。確かこの通信にも書きましたかな。今回の「ブラッシュアップライフ」は生まれ変わりには違いないのですが、死ぬ前の記憶を持ったままもう一度同じ人生を赤ちゃんからやり直すというお話です。市役所の職員、薬剤師、テレビ局のドラマプロデューサー、研究医、パイロットと、何度も職を変える主人公。そのたびに前世のつじつま合わせに苦労しながらも徳を積むことを意識して生き直すのですが、その悪戦苦闘ぶりがコミカルに描かれていて面白かったな。選ばなかった、あるいは選ばなかったもう一つの人生に人は嫉妬しながら生きている、これ誰の言葉でしたっけ。君たちもこれから大人になって、あるいは学生時代にも結構あるかな、今自分が人生の大きな岐路に立っていることを自覚するときが来ると思います。右に行くか左を選ぶか、それによって自分の人生が明らかに変わる、そんな時を経験するでしょう。できれば、我欲を捨て、世のため人のためになる選択をしてほしいと思います。

さて、中学校の始業式で話したことですが、繰り返します。元日に石川県で大きな地震がありました。当日金沢市にいたという人に聞いたのですが、まず地鳴りがして続いてかなり長い時間大きな横揺れがあったそうです。家の壁にひびが入るし余震は続くし、眠れぬ夜を過ごしたとのこと。最近南海トラフを避けるかのように各地で地震が起きていますが、それによって南海トラフの潜在エネルギーが減ると思えないので、相変わらず三重県は日頃から警戒を怠ってはいけません。とにかく地震の予知はできないのですから、自分がどこで何をしているときに起きるかわかりません。そのとき自分はどのように行動するか、被災を最小限にとどめるために何をすべきか、自分の安否を保護者にどう伝えるか、これらを日頃から家庭で決めておくことが大切です。保護者にとって何より必要な情報は子どもが無事であるか、どこにいるか、この二点です。登校時に発生したら自分はこういう行動をとる、学校にいるときはこういう動きをする、下校時ならこうするなど、君たちの行動はかなり細分化されるはずです。そもそも歩いて通学できる生徒や家まで自転車で帰れる生徒と電車やバスを利用する生徒とはずいぶん場合分けが異なるでしょう。地震の規模によっても私たちの動きは変わるはずです。津波の恐れがあれば尚更です。とにかく、親子でこういう時はこうするという行動規範を作っておくことをお勧めします。

ちなみに阪神淡路の震災で九死に一生を得た友人がいるのですが、彼が力説していたのは「何はともあれ水です。水がなかったらダメです」とのこと。ご参考までに。

今週のおすすめ

・知念実希人 『となりのナースエイド』 (角川文庫)

p.75 と p.187 に誤植を見つけました。皆さんもお探しを。二刷り以降は直っているかもしれませんが。ナースエイドという仕事は知りませんでした。看護師の手助けをする、ただし医療行為は行えない、しかし患者との距離は最も近いと、そういう存在らしいですね。今回の主人公は訳アリの新米ナースエイド濤とオペの技術こそが全てという天才外科医竜崎。ドラマが1月から放送らしいから楽しみです。観ようっと。

これは医療ミステリーとしてはイマイチですが、ヒューマンドラマとしては面白いですね。知念さんらしい展開です。ラストは、まあ予想通りかな。

途中、新興宗教の絡みで子どもに手術を受けさせない母親が登場します。竜崎も濤も手術をしないと子どもが死んでしまうことを母親に訴えるのですが、母親はお腹にメスを入れるとオーラが抜けるから駄目だと、一般人には理解できない主張を繰り返すばかり。さて、君が外科医ならどうしますか。親の承諾なしに手術をすれば法律違反で裁かれます。手術をしなければ子どもは死にます。定められた法的手続きを行えば親権者が反対していても必要な医療は行えるらしいのですが、時間がない場合もありますよね。一刻を争う場合、君には助けることのできる技術がある、助ければ罰せられる、どうしますかね。こういう思考実験は、条件を自分で設定してやってみると面白いですよ。今回、天才竜崎には全く迷いがなかったし、私も同じ結論でした。

BGMは Mr. Children の *Tomorrow never knows* でした…。